

## 1. 運 転

- ・放水をしない空運転はエンジン不調の原因になりますので、真空試験程度にして下さい。
- ・何ヶ月か毎に高圧放水を5～10分程度行うことをお勧めします。※必ず管鎗を先端に付けて下さい。
- ・放水後は排水及び真空試験を必ず行って下さい。 ※排水ドレンコックの口数は機種により異なりますのでよく確認して下さい。

## 2. 燃 料

- ・混合ガソリンの場合は混合比を間違えないよう注意して下さい。分離給油方式の場合はオイルタンクには2サイクルオイルを入れて下さい。
- ・運搬及び格納時は必ず燃料コックを閉めておいて下さい。
- ・運転後はキャブレターの燃料抜きを行って下さい。
- ・燃料は一年に一度、タンクの燃料をほぼ全量抜いて新しい燃料を入れて下さい。

## 3. 真空ポンプ

- ・オイル式の場合は潤滑油としてオイルタンクのオイルを切らさない様に注意して下さい。無給油式の場合は不要です。
- ・自然水利等で砂またはゴミ等を吸上げた場合は必ずストレーナーを清掃して下さい。

## 4. 冬季管理

- ・放水後は排水を確実に行って下さい。その後、真空試験を兼ねて残水の処理を行ってからポンプケースに不凍液を注入し吸口キャップを付け、もう一度運転し真空ポンプを作動させ不凍液をまんべんなくまわして下さい。
- ・無給油式真空ポンプの場合は真空ポンプ手前のストレーナーにも不凍液を入れてから運転及び真空ポンプの作動を行って下さい。  
※真空ポンプ作動後は排水ドレンコックを開けてポンプケース内を大気圧に戻して下さい

その他：詳細は取扱説明書をご参照下さい。また、ご不明な点はご遠慮なくお問い合わせ下さい。

1. 放水後は必ず排水ドレンコックを開き完全に水抜きをして下さい。  
放水口を開にして、吸水口キャップは、はずしたままで排水してください。  
排水後は、排水ドレンコック、放水口を閉じて吸水口キャップを付けてください。  
機種により排水口数を確認してください。
2. ポンプ使用後は、キャブレターの燃料を抜いて下さい。(燃料コック閉の確認)  
キャブレター燃料抜きが表示があります。長期間、キャブレターに燃料が入っているとメインジェットが目詰まりしエンジンが、かかりにくくなったりエンジンが止まる場合があります。
3. 真空ポンプオイルの確認  
オイル(2サイクルオイル)がないまま真空ポンプを作動させると故障の原因になります。  
★オイルレス真空ポンプは、オイルは不要です。  
オイルレス真空ポンプストレーナーの清掃、汚水、砂等吸い上げた時はストレーナーを外し砂等を取って下さい(汚れていると真空時間、真空度が悪くなる場合があります。)
4. 寒冷時には不凍液をポンプ室、真空ポンプに入れて下さい。(排水確認の事)  
不凍液の入れ方…500CCのペットボトルに不凍液を入れ、吸水口キャップを付け、  
ポンプ排水ドレンにビニールホース(付属)をペットボトルに入れ真空ポンプを作動させ不凍液を吸い込ませます。  
完了後、排水ドレンコックを閉め10秒位エンジンを回して下さい。  
オイルレス真空ポンプの場合はストレーナーをはずし直接不凍液を入れて下さい。  
不凍液注入装置付の場合は手順通り行って下さい。
5. バッテリーは常時充電して下さい。(バッテリー液の確認、密封式は不用)
6. ポンプ点検時、長時間の空運転は、しないで下さい。  
水冷ポンプのため、長時間の空運転は故障(焼付等)の原因になります。  
真空度を確認する程度にして下さい。
7. 砂、泥等を吸い上げた時は、清水を通してポンプ室内を清掃して下さい。
8. 放水口レバーが重く感じた時は、放水口ボールコックに潤滑油(CRCシリコン入)を吹き付けて下さい。

メーカー、機種により異なりますので取扱説明書で確認して下さい。